平成27年ＪＡ冬期懇談会資料46、47、53、60、61ページをご参照ください。

営農情報 第7号

平成 27 年 7 月 10 日
アルプス農協管内農業技術者協議会

1 コシヒカリの生育状況

現在の生育状況は、草丈が近年並みで、㎡当たり茎数がやや多めになっています。また、葉齢の展開は昨年並みで、近年より進んでいます。

幼穂形成期は５月11日頃の田植えで、７月９日頃となっており、近年より２日程度早くなっています。

表　コシヒカリの生育状況（管内アルプス米標準田　7/6 調査）

	草丈（㎝）	茎数 本/株	茎数 本/㎡	葉齢	葉色	幼穂形成期
本　年（5/11植）	67.4	22.9	468.1	11.9	4.0	(7/9)
昨　年	66.6	22.8	467.3	12.0	3.9	7/9
近　年	67.5	24.1	449.4	11.7	4.0	7/11

※近年値はアルプス米標準田 H17～26の平均値
※今年の幼穂形成期は推定値

2 出穂期までの水管理 ～幼穂形成期以降は飽水管理を実施～

① **幼穂形成期から出穂期までは『飽水管理』**を行い、ほ場が常に湿っている状態を保ちましょう。
② フェーンが予想される場合は、水不足にならないよう、あらかじめ入水しましょう。
③ 出穂後20日間は、田面が露出しない程度に湛水管理をしましょう。

［飽水管理の方法］
① 3㎝程度入水
② 自然減水（2～4日）
③ 入水
（出穂始め頃まで繰り返す）

［飽水管理の効果］
①根が常に水分吸収可能な状況を維持することで急激な葉色低下を防ぐ
②肥料持ちを良好にする

○ 水管理のイメージ

生育期	幼穂形成期 7/9 頃　　出穂期
水管理	間断かん水 ← 飽水管理 → 出穂後20日間は湛水管理
水　量	

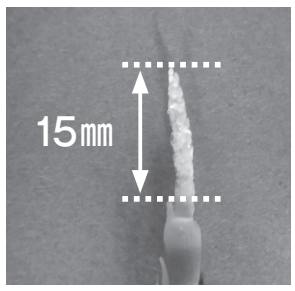
3 コシヒカリの穂肥（分施体系）～必ず生育状況を確認しましょう～

穂肥の施用にあたっては、ほ場の生育状況と幼穂の長さを必ず確認し、１回目は慎重に、２回目は確実に行いましょう。

○ 生育量別穂肥の目安（穂肥は、ＢＢ穂肥35号を施用）

１回目穂肥施用時の生育量と施用量（幼穂長15㎜）					２回目穂肥	
生育量	草丈	葉色	施用時期	10a当たり施用量	施用時期	10a当たり施用量
適正	82㎝以下	3.6	7/17 頃	10kg	１回目穂肥の７日後	10～13kg（砂壌土13kg）
やや過剰	82～87㎝	3.8程度	7/18～20 頃	7kg以内		10kg
過剰	87㎝以上	4.0以上	施用しない		出穂７日前（7/25 頃）	7～10kg

１回目穂肥時の幼穂の様子



4 てんこもりの穂肥

分施体系の方は、営農センターもしくは農林振興センターまでご相談ください。

適期作業看板設置中

JAアルプスでは昨年に引き続き「適期作業看板」を設置し、栽培基本技術の励行指導を行っています。
この看板は、適宜取り替えて掲示していますので、適期作業の参考としてご活用ください。

次回の営農情報（コシヒカリの防除、出穂後の水管理等）の発行予定は、7月17日頃です。

平成27年ＪＡ冬期懇談会資料48～52ページをご参照ください。

5 てんたかくの基本防除

病害虫発生注意報発令　～斑点米カメムシ類の多発に注意～

(1)　管内のカメムシ発生状況（雑草地・畦畔等）

- ６月下旬にアルプス管内の雑草地・畦畔等でカメムシのすくいとり調査を行った結果（右図）、**カメムシの確認地点率は高く、１地点当りの捕獲頭数も多い状況**です。
- 大麦跡田では100％の地点率でカメムシが確認されました。
- **基本防除を遅れず確実に実施し、斑点米の発生を防止**しましょう。

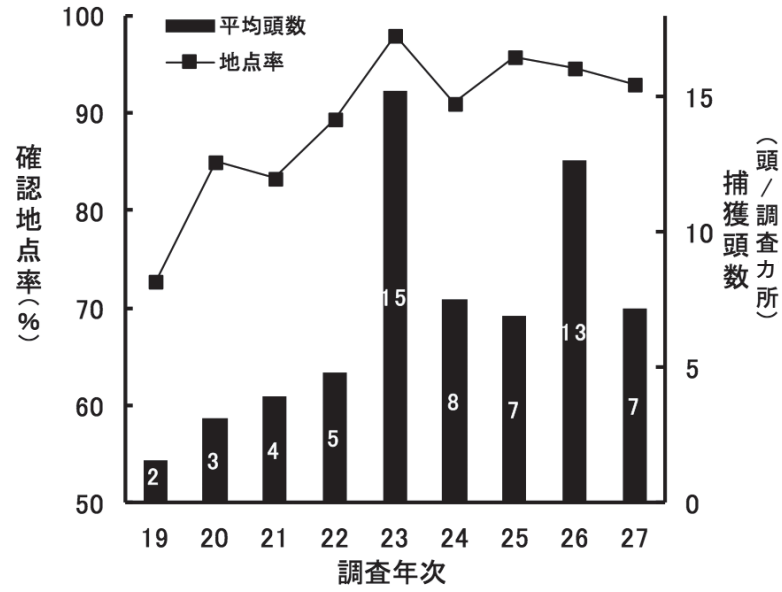


図　斑点米カメムシ類の確認地点率と平均頭数
（畦畔・雑草地、６月下旬　調査ヵ所数　57ヵ所）

(2)　てんたかくの防除時期のめやす（５月上旬田植、幼穂形成期 6/26頃、出穂期予想 7/19頃の場合）

防除時期		出穂直前	穂揃期	傾穂期
		7月14～16日頃	7月21～23日頃	7月28～30日頃
薬剤名 散布量 （使用時期）	粉剤対応	ブラシンバリダ粉剤 DL 4kg/10a	ラブサイドキラップ粉剤 DL 4kg/10a	スタークル粉剤 DL 3kg/10a
	（収穫前日数）	（収穫14日前まで）	（収穫14日前まで）	（収穫７日前まで）
	液剤対応	ブラシンバリダフロアブル	ラブサイドフロアブル＋キラップフロアブル	スタークル液剤 10
		1,000倍 150ℓ/10a	1,000～1,500倍 150ℓ/10a　1,000～2,000倍 150ℓ/10a	1,000倍 150ℓ/10a
	（収穫前日数）	（収穫14日前まで）	（収穫14日前まで）	（収穫７日前まで）
対象病害虫		いもち病、紋枯病、ごま葉枯病	いもち病、**カメムシ類**、ウンカ類	**カメムシ類**、ウンカ類、ツマグロヨコバイ

※田植え時期によって生育差があるため、生育状況を確認して防除時期を決めましょう。

※ 薬剤は決められた量や濃度を守り、畦畔や株元にも十分かかるように散布しましょう。

※ **防除間隔は７日を基本**とし、10日間以上あけないようにしましょう。

※ **農薬散布の際は、周辺の野菜等の他作物や住宅地への飛散防止に努めましょう。**

6 大麦跡田・不作付地の有効活用

大麦跡田を放置すると、雑草が繁茂し、カメムシ類の生息地になってしまいます。

大麦跡田、不作付け地では、**①野菜やそばなど収益性のある作物や、②地力増進作物（クロタラリア等）などを作付け**しましょう。

また、上記の対応ができない場合でも、**③雑草の発生を抑制するために、７月中旬までにほ場を耕起し、**カメムシの繁殖を抑え、斑点米の発生を防止しましょう。

栽培履歴の記帳と農業生産工程管理（GAP）のチェックは忘れずに！